

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 8 月 28 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03257

研究課題名(和文) 冷戦期欧米における「核の平和利用」の表象に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Representation of 'Peaceful Uses of Nuclear Power' in Europe and the USA of the Cold War Era

研究代表者

木戸 衛一 (Kido, Eiichi)

大阪大学・国際公共政策研究科・准教授

研究者番号：70204930

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：本共同研究の最大の成果は、研究代表者・研究分担者全員に5名の執筆者を加えて、論集『核開発時代の遺産』(若尾祐司・木戸衛一編、昭和堂、2017年10月刊行)を上梓したことにある。本論集への批評とそれに対する応答の場として、2017年10月28日、同志社大学今出川キャンパス良心館において、出版記念シンポジウムを開催した。また、2017年11月25日には、香川大学で開催された日本平和学会秋季研究集会において、「ポスト成長時代の社会構想 環境とコミュニティの破壊から再生へ」という統一テーマの下、研究代表者および分担者3名が、パッケージ企画「核開発に対する抵抗活動 各国の事例に学ぶ」を担当した。

研究成果の概要(英文)：The research leader and all of members of this project cooperated in order to complete the Book "Kaku Kaihatsu Jidai no Isan" (=The heritage of the nuclear development era), which was published in October 2017 by Showado Publisher. We organized the publication memorial symposium of our book, which was held on October, 28th, 2017 at Doshisha University. We organized also the research session "resistance activities against nuclear development" at the conference of the Peace Studies Association of Japan (PSAJ) on November 25th, 2017 at Kagawa University, and the research conference "comparative study of political culture on radioactive: Finland and Germany" at the conference of the Society for German Modern History on March, 18th, 2018 at the Consortium of Universities in Kyoto.

研究分野：ドイツ現代政治

キーワード：核開発 核の軍事利用 核の「平和利用」 ウラン採掘 核廃棄物

1. 研究開始当初の背景

冷戦期、対立する東西両陣営が同時に追求した核政策のうち、原水爆開発・核軍拡競争は当初から争点化したのに対し、いわゆる「平和利用」はどの国でも国民的な合意の下にあるとされ、大きな対立点とならなかった。しかし、1986年、旧ソ連のチェルノブイリ原発事故を契機に、欧州では、日米など世界の他地域と異なり、広範な反対運動を通じて脱原発に向かう国と、それを横目に従来の原発推進政策を再定義せざるをえなくなった国とが現れた。

このような欧州における原子力「平和利用」政策と各国国民世論の変遷を理解するうえで、日本における従来の冷戦期原子力「平和利用」史研究は、もっぱら自国のそれ、あるいは日米間の関係に関心が集中し、欧州を俎上にのせることが少なかった。また、そもそも、核エネルギーの原料となるウランの採掘に始まり、原子力発電施設的设计・建設を経て、放射性廃棄物の処分に至る一連の過程を、自前ですべて賄える国家はほとんどなく、まして東西対立の厳しかった冷戦期は陣営思考が強く作用していたことから、各国別の分析には限界があり、「核の国際的連関」を重視する必要が生じた。

本研究は、こうした研究史上の欠落を補うと同時に、核技術開発・抗争の社会文化史研究を統合しつつ、「表象の歴史学」という新しい手法により、冷戦期に絞って、「核時代」という同時代史の総合的な叙述モデルを提示しようとした。ここに提起する「表象の歴史学」とは、「記憶の歴史学」からの発展形態であり、より具体的には、「核時代」、そして核「平和利用」言説の変化を軸に、核技術に関する同時代の集会的表象を問うものである。

さらに本研究は、軍事面における人類絶滅の恐怖、民生面における繁栄への期待という対極的争点を初発から内包する核技術の表象に、総合的な史的検証を加えるという、日本のみならず国際的に未開拓の学術的課題に取り組むことを目指した。

2. 研究の目的

冷戦期欧州諸国を主な対象とした本研究の目的は、以下の4つの課題群から成る。

第一の中心的課題群としては、冷戦期における国際的連関のなかでの「核の平和利用」の言説と政策、核技術の軍事利用と発電利用との関係性に対する政府レベル・民衆レベルでの認識とその変化、核エネルギー政策の展開と地域住民運動との関係を検討した。それを通じて、冷戦時代核エネルギーをめぐる、一方で人類絶滅の恐怖、他方で繁栄への期待と、集会的表象が最も先鋭な形で表現され争点化された時期を各国別に確定することを目指した。

第二の課題群として、米国の核実験・放射線防護問題、国際的な放射性廃棄物処理の問

題、旧ソ連における原子力開発とチェルノブイリ事故、高速増殖炉や核融合炉開発計画など、冷戦期ヨーロッパ諸国の核エネルギー政策や世論に大きな影響を与えたトピックスを取り上げ、それらが核技術の表象にどのような影響を与えたかを解明しようとした。

第三に、そうした各国ごとの知見を総合化し、相互の連関や影響関係の分析を図った。同時に、そこで得られた時期区分の世界史的な意義を、欧米以外の地域、特に日本研究との連携を通して検討し、「核時代」という同時代史の普遍的命題化を図った。

第四に、本研究では、過去について何が記憶されるかは、現在から見て過去がどのように表象されるかに関わっているとの見地から、各時期・各国における原子力の集会的表象を検討し、核技術と一般市民とをつなぐ「表象の歴史学」の方法を提示することにより、現代の規定要因をなす多様な高度科学技術と一般市民との相互関係・相互行為を問う、現代史研究の新しい方法的視野を開くことを目指した。

3. 研究の方法

本研究では、恐怖と繁栄の対極的争点を孕んだ核技術にまつわる歴史的経緯の整理と論点の掘り下げを期して、主として、研究代表者・分担者がそれぞれの研究対象国(ないし機関)を訪問し、現地の図書館その他で史料・関連情報を渉猟し、各年度定期的に研究会を開催して、問題意識のすり合わせや研究面の情報交換を行った。研究会では、国内外の講師を招へいし、各人の研究活動が自閉的なものに陥らないよう心掛けた。

特に、本共同研究の3年目に、論文集を出版することが具体的日程に上って以降は、全体のおよび個別的に、内在的な論文検討会を開催した。

4. 研究成果

本研究の成果は何よりも、研究代表者・研究分担者全員が執筆した論文集『核開発時代の遺産』(若尾祐司・木戸衛一編、昭和堂、2017年)に代表される。

同書は、核時代の全体史を克明に検証する予備作業として、個別の核サイトを取り上げ、よりミクロのレベルで事例研究を通して核時代史の検証を積み上げたものである。核の軍事利用と「平和利用」それぞれの核サイクルの全過程に関わる国際・国家・地域の政治を初めとして、各国ごとの政治分析とその比較という従来の原子力政策の研究方法で多分に零れ落ちていたテーマを丹念に拾い上げて、学問的な視点・地検の豊富化に貢献した。

また、同書の刊行を機に、加藤哲郎・一橋大学名誉教授と金聖哲・ソウル大学統一平和研究院教授を評者に招いて、公開の出版記念シンポジウム(2017年10月25日、同志社大学今出川キャンパス)を開催したほか、学

会・研究会においても成果を披露し、広く社会に還元した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 13 件)

友次晋介、核軍縮におけるジェンダー主流化、広島平和科学、査読無、39号、2018、117-126

木戸衛一、いまこそ「でもくらていあ」へ、りいどみい、査読無、8号、2017、47-55

Hiroshi Ichikawa, Against Lysenkoites' Hegemony: On the Establishment of the Institute of Cytology and Genetics at the Siberian Branch of the USSR Academy of Sciences, Studies in the History of Biology, 査読有, Vol.9 No.2, 2017, 7-21

佐藤温子、フィンランドにおける放射性廃棄物処分政策形成の歴史的背景 - ドイツとの比較の視座から、北ヨーロッパ研究、査読有、13巻、2017、45-51

Shinsuke Tomotsugu, After the Hegemony of the "Atoms for Peace" Program: Multilateral Nonproliferation Policy under the Nixon and Ford Administrations, The Japanese Journal of American Studies, 査読無, No.27, 2016, 167-188

Yoko Kiamura, Atomkraft - Energie für eine segensreiche Zukunft, 査読有, 16-1, 2016, 63-67

Hiroshi Ichikawa, Obninsk, 1955: The World's First Nuclear Power Plant and the "Atomic Diplomacy" by Soviet Scientists, Historia Scientiarum, 査読有, 26-1, 2016,

市川浩、旧ソ連最初期の放射線研究とヒロシマ、ナガサキ、ピキニの被爆データ - アンナ・ヴァシリエヴナ・コズローヴァ(1906-1980)、文明科学研究、査読有、10、2015、1-11

Makiko Takemoto, Nuclear Politics, Past and Present: Comparison of German and Japanese Anti-Nuclear Peace Movements, Asian Journal of Peacebuilding, 査読有, Vol.3 No.1, 2015, 87-101

高橋博子、冷戦下の被ばく者調査、アメリカ史研究、査読有、38、2015、58-71

[学会発表](計 13 件)

木戸衛一、東ドイツにおける核開発の遺産、ドイツ現代史研究会、2018、キャンパスプラザ京都

佐藤温子、フィンランド・ドイツにおける原子力 - 東と西のはざままで、ドイツ現

代史研究会、2018、キャンパスプラザ京都

小島智恵子、使用済核燃料の深地層処分の技術に関する国際比較、日本物理学会、2018、東京理科大学

小島智恵子、フランスにおけるド・プロイ理論の評価、日本科学史学会、2017、香川大学

高橋博子、アメリカにおける「パワー」としての核 - 核兵器と原子力、日本平和学会、2017、香川大学

竹本真希子、ドイツにおける反核と反原発の結びつき、日本平和学会、2017、香川大学

佐藤温子、「原子力先進国」フィンランドにおける反核と反原発、日本平和学会、2017、香川大学

小島智恵子、日本におけるド・プロイ理論の受容、日本科学史学会、2016、工学院大学

小島智恵子、1950年代の日仏原子力協力に関する資料分析、日本物理学会、2017、大阪大学

Nagako Sato, Spent nuclear fuel policies in Finland and Japan: A comparative perspective, Seminar on Governance of Nuclear Safety and Nuclear Risk, 2016, University of Jyväskylä

小島智恵子、仏高速増殖炉 Phenix の廃炉に関する歴史、日本物理学会、2016、東北学院大学

Hiroshi Ichikawa, Radiation studies and the USSR Academy of Sciences in the second half of the 1950's: beyond the Lysenkoites' hegemony, The IX World Congress International Council for Central and East European Studies, 2015, 神田外語大学

小島智恵子、仏高速増殖炉 Phenix 開発史とその解体動向、日本科学史学会、2015、大阪市立大学

[図書](計 8 件)

木戸衛一・高橋博子・市川浩・竹本真希子・友次晋介・小島智恵子・北村陽子・佐藤温子、昭和堂、核開発時代の遺産、2017、380

市川浩他、岩波書店、ロシア革命とソ連の世紀4、2017、314

友次晋介他、志學社、軍縮・軍備管理、2017、329

木戸衛一・竹本真希子他、法律文化社、平和と安全保障を考える事典、2016、701

市川浩、北海道大学出版会、科学の参謀本部、2016、520

小島智恵子他、化学同人、化学史事典、2017、1000

高橋博子他、創元社、核の戦後史、2016、288

高橋博子他、明石書店、核時代の神話と
虚像、2015、368

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木戸 衛一 (KIDO, Eiichi)
大阪大学・大学院国際公共政策研究科・准教授
研究者番号：70204930

(2) 研究分担者

市川 浩 (ICHIKAWA, Hiroshi)
広島大学・総合科学研究科・教授
研究者番号：00212994

高橋 博子 (TAKAHASHI, Hiroko)
明治学院大学・国際平和研究所・研究員
研究者番号：00364117

北村 陽子 (KITAMURA, Yoko)
愛知工業大学・工学部・准教授
研究者番号：10533151

佐藤 温子 (SATO, Nagako)
大阪大学・大学院国際公共政策研究科・招
へい研究員
研究者番号：20748264

竹本 真希子 (TAKEMOTO, Miko)
広島市立大学・広島平和研究所・准教授
研究者番号：50398715

小島 智恵子 (KOJIMA, Chieko)

日本大学・商学部・教授
研究者番号：70318319

友次 晋介 (TOMOTSUGU, Shinsuke)
広島大学・平和科学研究センター・准教授
研究者番号：90622019

(3) 連携研究者

若尾 祐司 (WAKAO, Yuji)
名古屋大学・文学研究科・名誉教授
研究者番号：70044857

(4) 研究協力者

()